

三田高校

TOMOKAKI



第26号

発行所/東京都立三田高等学校

(青葉会・懇親会)

港区三田1-4-46 3453-1991(代)

伝統の継続



校長 米田 敏男

今日の我々の社会は、科学技術の発展により、益々国際化、情報化が深まり、国内社会・国際社会ともに「大きな変化の時代」となっています。

本校教職員一同は、このような時代に対応して、本校の教育目的である、健康で知性が高く情操豊かで、積極的・誠実な人間を育成する、ということの具現化を図り、社会に有為な人材を育てていきたい、と日々努力を重ね教育活動に邁進しております。

本校は、現在進められている都立高校教育改革の重要な柱として、平成十七年度開校予定の「港区チャレンジスクール(仮称)」として生まれ変わりますが、

昭和四年創立以来の長い歴史と伝統は、脈々と受け継がれていきます。

今後とも、さらなる本校の発展のために、青葉会の今日までの物心両面に亘るご援助に感謝申し上げますとともに、ご支援をお願い申し上げます。

京都再訪



教頭 天野 秀人

八月に京都に行った。夏に京都に行くのは、暑すぎて季節外れだという「定説」があるが、東京とさほど変わりはない。今回の京都訪問の目的の一つは、長女の願望を叶えてやることだった。それは晴明神社の参拝である。映画・劇画等の陰陽師ブームで、安倍晴明邸宅跡にある晴明神社にお参りするの若い人々

の間で流行しているという。

実は、陰陽師ブームが起きる遙か以前の十年前に、私は安倍晴明に興味を持ち、京都訪問の際に、晴明神社を訪れたことがある。そのときは、私以外に参拝者は無く実に静かであった。ごく普通の、むしろ小規模な神社であった。

今回行ってみて驚いたのは、参拝者の多さである。またあの古めかしかった神社の社務所が、真新しい白木造りになっていた。

安倍晴明は、陰陽師として多種多様な能力を発揮していたと言われている。デジタル革命の恩恵を浴している、心の悩みは決して消えることない我々が、千年前の超能力者に憧れを持つのは十分理解でき

一年を振り返って



会長 若月 義男

皆様には、ぜひ会員同志の交流で悩みを打ち明けあって解決を図っていただきたい。また

母校が懐かしくなったときには、いつでもお出でいただきたい。

会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年十一月二十三日の青葉会総会・懇親会には多数の方々にご出席いただきましてありがとうございます。七十周年行事のあと、また、一年お休みしたあとの開催ということだけで皆様に集まっていただけかどうかが心配でしたが、盛会のうちに終了し、ほっとしました。

今年も昨年お話ししましたように総会・懇親会は開催しません。従って会報「ともかき」の発行がメンバーの活動となりまして。五月から幹事会を重ね検討の結果、今年もカラー印刷とし、昨年の同窓会のスナップをたくさん掲載し、目で楽しんでいただくということになりました。毎年ともかきを発行するにあたり悩みの種はできるだけ多くの方の記事を載せたいと思うのですが、誰にお願いしようかということ。クラス会が開催された時等、是非ご一報下さい。

各稿の時期は新聞発行のスケジュールから七月末頃までに三田高校青葉会にてお願いいたします。

また、ともかき発行の大きな財源であります維持費につきましても多くの方々からご賛同いただきまして本当にありがとうございます。

次の同窓会は、平成十六年十一月を予定しております。その時また楽しい集いができましよう皆様の変わらぬご支援をお願い致します。

平成14年度
「青葉会総会・懇親会」は
開催いたしません